ボトルネック解消による整備効果が発現された「塩見川」

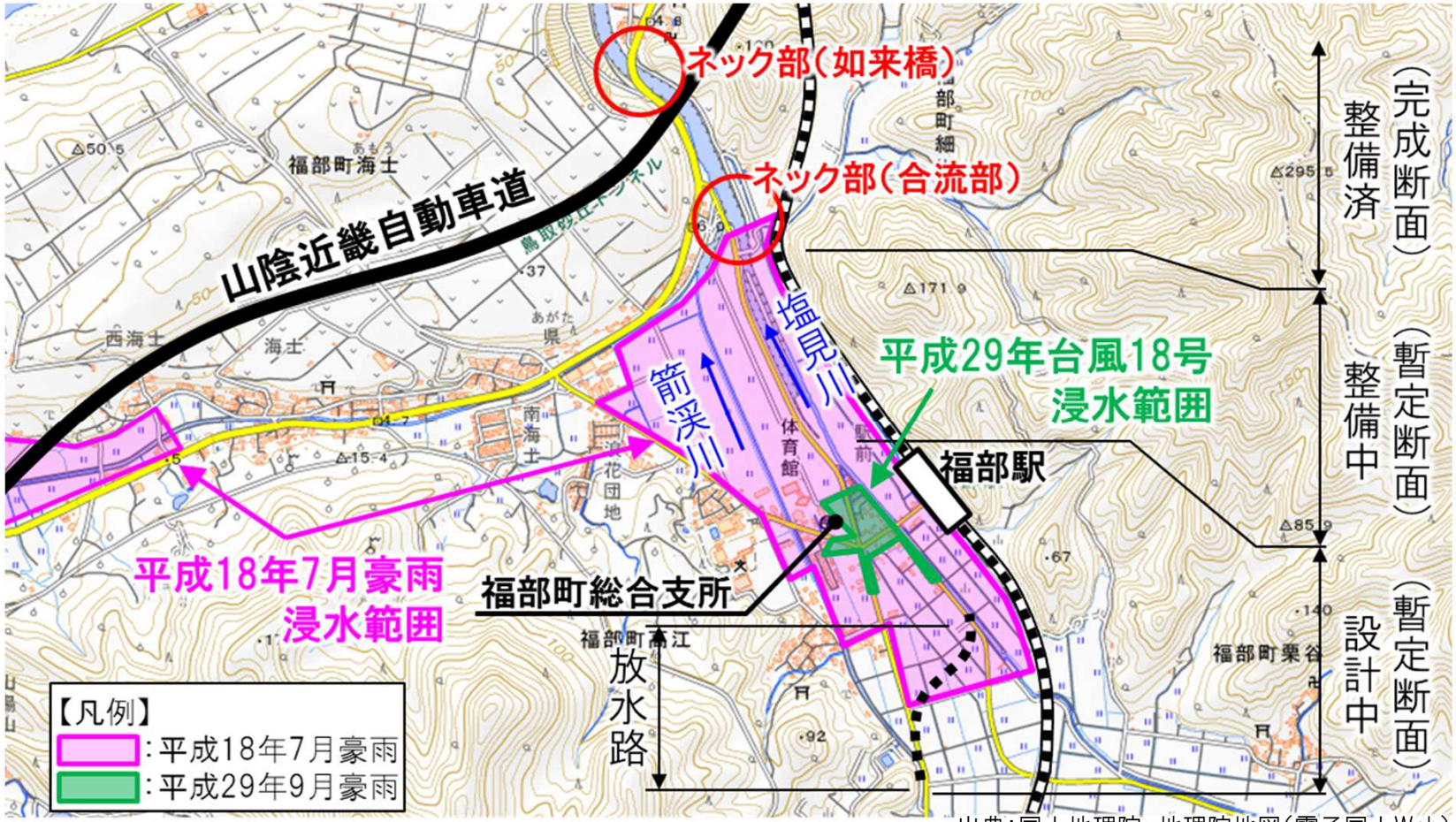
令和4年8月
鳥取県河川課

・長年、塩見川の治水上のボトルネックであった如来橋（にょらいばし）、箭渓川（やだにがわ）合流部が平成29年度に解消された。
・これにより平成29年台風18号では、近年大きな浸水被害が生じた平成18年7月豪雨と同程度の降水量であったにもかかわらず、大幅に浸水被害（面積）が軽減された。加えて平成30年7月豪雨においても、同程度の降水量を観測したが、被害は発生せずネック部解消（河川整備）の効果が確認された。
・更なる被害軽減に向けて、上流区間の河道整備を進めるとともに箭渓川の流量を低減させるため、放水路の早期整備を目指す。

＜過去の浸水被害との比較＞

平成18年7月豪雨ではネック部を起点に上流側で広範囲の浸水被害（ピンク着色）が発生した。以降、重点的に河川整備を行い、年々浸水による被害は軽減されている。

ネック部の状況	事象	24時間雨量	最大時間雨量	床上浸水	床下浸水	浸水面積
解消前	平成18年7月豪雨	181mm	26mm	11戸	24戸	103ha
解消後	平成29年台風18号	154mm	48mm	1戸	3戸	2ha
	平成30年7月豪雨	165mm	25mm	0戸	0戸	0ha
	（参考）令和3年7月豪雨	118mm	23mm	0戸	2戸	－



出典：国土地理院　地理院地図（電子国土Web）